

《 賛助会員からひとこと 》

各メーカー様に御寄稿いただきシリーズとして掲載しています。

Summit Spirit

サミット製油株式会社
営業部

【経営理念】

人にやさしい油脂製品・香粧品の未来を創造し、安心と豊かさに貢献する。
活力に溢れ、革新を生み出す企業風土を醸成し、油脂業界のスペシャリストを目指す。

【経営方針】

法と規律を守り、高潔な倫理を保持する。
よき企業市民として地球環境の保全に配慮し地域社会に貢献する。
お客様の信頼と期待に応えられる、魅力的な企業を目指す。
明確な目標を掲げ、情熱を持って行動する。

サミット製油株式会社は、1968（昭和43）年1月29日に設立され、2018（平成30）年に設立50周年を迎えました。

簡単ではありますが、その歴史を振り返ってみましょう。

1964年、食品工業の近代化・合理化を図るため、日本で最初の食品工業団地として、「千葉食品コンビナート」が千葉市新港に造成されました。

1968年1月29日、千葉食品コンビナート内に綿実の搾油・精製による綿実油の製造を目的として、住友商事株式会社とキューピー株式会社、両社の出資により設立。

当社の商号であるサミット製油の「サミット」は、英語で山頂を意味する SUMMIT に由来します。



写真) ロートセル型抽出機



写真) 脱臭塔設置

当社は、綿実油の製造を目的として設立されましたが、一番初めに処理した原料は、ひまわり種子でした。

1968年10月にひまわり種子2,300トが入荷し、11月27日に圧搾工場、12月20日には精製工場の運転が開始されました。

綿実工場は翌年1月に運転開始しています。

綿実については国内後発組であったため、原料確保は厳しく低開発国に依存し、品質問題などの困難がつきものでした。



写真) 綿実工場 (リンターマシン)

1970年代に入ると綿実油を取り巻く環境が大きく変化していきました。

綿実の飼料需要の増加に伴い入手が困難となり、また搾油・精製技術が進歩し、植物油全体の需給構造が大きく変化し、より安価な大豆油や菜種油でもマヨネーズ等の製造が可能となりました。

そのため、1972年4月から菜種油の製造を開始し、翌年3月には脱ガム装置を導入、事業環境がさらに悪化した綿実搾油については1987年12月に撤退しました。

また、出荷は全てタンクローリーとしていましたが、1976年1月に一斗缶充填設備を導入し、一斗缶での販売を開始しました。

1970年代半ばから後半には、人々の健康への関心が高まり健康ブームが到来し、1977年6月よりビタミンEを豊富に含む小麦胚芽油の製造を開始しました。

1983年9月には搾油・抽出・精製のすべての工程を内製化し、小麦胚芽専用プラントが完成しました。今日に続く少量多品種の特殊油脂事業の始まりです。



写真) サミット小麦胚芽カプセル

1986年6月に化粧品小分け包装の免許を取得し、化粧石けん「サミットはとむぎ石けん」の販売を開始しました。

翌年4月には化粧品製造業の免許を取得し、本格的に化粧品事業を開始しました。



写真) はとむぎ化粧品シリーズ 写真) べに花

1995年には健康食ブームによりべに花油市場が急拡大し、当社もべに花油の主要メーカーとなり、お客様からのご要望にお応えすべく、丸缶製造ライン、瓶およびペットボトルラインを新設・増設し、べに花油以外にもオリーブ油、ひまわり油、亜麻仁油、えごま油等の家庭用商品の充填を拡大していきました。

植物油の輸入関税引き下げなど外部環境が大きく変化し、また搾油・抽出設備の老朽化により、搾油・抽出事業から撤退し、海外より原油を輸入し、国内では精製に特化することを決断しました。

その後、2007年4月に特殊油脂プラントを新設し、現在では小麦胚芽油、アーモンド油、マカダミアナッツ油、精製オリーブ油、ハト麦油、ボラージシード油など41種類の植物油脂の製造・販売を手掛けています。

同年4月に低温圧搾機であるコールドプレス機を導入し、コーヒーオイルや黒胡椒油、花椒油など、原料の特徴を生かしたこだわりの香りオイルを手掛けています。

綿実の搾油・精製を目的に設立された当社ですが、様々な外部環境の変化やお客様のご要望にお応えすべく、事業領域や油種を拡大し、現在では41種類の植物油脂の製造・販売を手掛けています。そこには設立当初より『人にやさしい油脂製品・香粧品の未来を創造し、安心と豊かさに貢献する』ため、情熱を持って行動し、油脂業界のスペシャリストを目指した姿があります。